

いいお金の使い方したいよね。

庵野秀明も語る。

BRUTUS[®]

BOOK in BOOK

「価格」
と
「価値」



特集「お金の、答え。」

お金、ちゃんと使えてる？

私のお金ルール... えらいてんちょう、秋元才加、幡野広志、チェ・ウニョン etc.
スーパーアプリ／行動経済学入門／これからの資本主義

2020 9/1 特別定価 700 円

ふと天から降ってきたお金。自由に使っていい、と言われたらどうする？ 次ページよりお金の話を聞く8人の方々に、金額別に使い道を聞いてみました。他愛のない遊びですが、その人の価値観の本質が見えてくるような気も。あなたなら何に使いますか？

8 長谷川 愛 Ai Hasegawa

●アーティスト、デザイナー

美しいスイーツを食べる。

普段仕事をしている渋谷スクランブルスクエアには好きなケーキ屋さんがいくつか入っています。美しいケーキは花と一緒に、手頃な値段で触れられる、身近なアートですね。



友達とお酒を飲む。

日本酒でもワインでもいいのですが、普段飲めないような、ちょっといいお酒を買って、シェアハウスのみんなと宅飲みしたいですね。今住んでいるところには好きなことをやりながら暮らしている人が多くて、個人的にも刺激を受けています。気軽にいろいろな人と飲んだり、遊んだりできるのがシェアハウスの面白いところですよ。

女性の教育を支援。

女性の教育を支援している団体にドネーションします。知人に聞いたり、Webでちゃんと調べて、何にどれくらい寄付金を使ったのか明細を公開している団体を選びます。



さまざまな団体へ寄付。

女性団体に加えて、人種差別や貧困の撤廃などに取り組んでいるNPOや財団に寄付したいですね。未来は若者が担っていくものなので、中でも特に子供系の団体を支援できれば。けっこうまとまったお金なので、いくつかに分散してポートフォリオを組みたいところ。どこに、どれくらいの配分で投資するか考えるのも一興です。

労働による搾取から人間を解放。

合理化と分業化、今後のAI普及の中で、充足感のある仕事に就ける人は少なく、多くの人にとって働くことは我慢することになっている。働きたい人はほとんど働けばいいのですが、そうではない人は無理して働くなくてもいい。そのためにベーシックインカムを導入したいですね。そうすれば労働による搾取はなくなると思うんです。

7 猫組長 Nekokumicho

●投資家、ねこ評論家

花屋で花を買う。

僕は部屋に花を飾りなさいってよく言うんです。芸術的感性を身につけるための第一歩だから。しかも花を愛でるのはとっても人間らしい行動。幸せな気持ちになれますよ。



おいしいウナギを食べに行く。

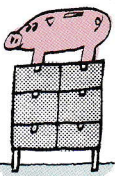
〈新宿うな鐵〉へ。庶民的な店だけれど僕は大好きなんです。ウナギもいいし焼き加減も抜群。押上にも好きなウナギ屋さんがあるんですよ。ただ注文してから割って焼くから時間がかかる。前に行った時は待てど暮らせど全然出てこなくて。1時間半ほど経てておかしいと思って厨房を覗いたら大将、寝てました(笑)。

六本木でシャンパンを開ける。

中途半端な額やからなあ(笑)。もらったらうれしいけど自分では絶対に買わないものがあるじゃないですか。高級てんぷら油とか高級石鹸とか。そういうのを買ったり、めっちゃくだらんことに使うかな。なので六本木のクラブに行ってシャンパン開けますね。中途半端なお金を使う意識もなくしてしまうのがいちゃばん悪いやけどね。

タンス預金にする。

現金で家に置いておきますね。タンス預金。僕ら投資家からすれば現金って匿名性が高いから便利なんです。オンラインで動かすと足跡がつく。後でいろいろめんどくさいんですよ。



日銀の国債を100兆円買う。

日銀と同じオペをやりますね。100兆円で日銀の国債を買い入れる。日銀もそれだけあれば資金供給ができるようになるしコロナ対策にもお金が回る。株式市場も良くなる。みんなハッピーになりますよ。僕にとっては日銀というめっちゃ堅い証券になるわけだから僕もハッピー。ただ、お金が無限にあったらそもそも価値なんてないからね。

6 チェ・ウニョン Eunyoung Choi

●作家

ハイネケンを4本買う。

大好きな〈ハイネケン〉のビールがちょうど4本買えますね。日頃からお酒はよく飲んでいて、中でもビールと一緒にフライドポテトを食べるのが、ささやかだけれど私の小さな幸せです。社会の問題、個人のこと……。時にはそれらからずっと離れられるようなオプシオンを持っておくと、健やかに生きていけると思っています。

友達とお刺身を食べる。

韓国の食堂では生け簀で泳いでる大きな魚をその場でさばいてくれるので、友達と一緒に刺身をつつきながら、他愛のない話をしたいです。最近では外出する機会も減ったので。



中古車を買って海へ。

現代自動車の「グレンジャー」という車を買って、高速道路で沿岸部の江陵という町までドライブしたいです。江陵は海もきれいですし、お刺身(再び！)もおいしいんです。



家のローンを返済する。

「今の韓国、特にソウルの若者は家が買えない」などと言いつつ、実は1年前に、ソウル市の北の方に思い切って家を買ったんです。でも、このままだとあと20年くらいローンを払い続けなといけなくて、そのプレッシャーから解放されるべく、早く払い終わりたいな(笑)。そうしたら安心して創作に専念できますね。

動物と女性のために寄付。

日頃から動物愛護団体や女性団体に寄付しています。韓国では昔からさまざまな女性団体が活動していて、やはり同性として応援していきたい。韓国に限らず、長い間維持されてきたシステムを変えるには多大な労力とコストが必要です。最近はサイバー性犯罪の撲滅や未成年女性の支援を行う団体に注目しています。

5 稲葉俊郎 Toshiro Inaba

●医師

本を持ち寄って読書会を開く。

金額に応じて「場」づくりをしたいです。まずは1人1冊ずつ1,000円以内で本を買って持ち寄って、10人くらいで読書会を開きます。みんなでいろいろな本を読んで語り合います。



テーブルと椅子をDIYする。

ホームセンターで板と釘なんかを買って、8人くらいで囲めるテーブルと椅子8脚を作ります。1万円だとみんなが集まるための場所を買ったり借りたりはできないので、神社とか公園に置いて輪になって話したり、何か楽しいことをしたいですね。お金が余ったらペンキを買って、椅子とテーブルをペイントしたらより楽しそうです。

みんなで集まれる場所を買う。

100万円で足りる規模の場所を買って、友達や身近な人が自由に集まれるスペースを作りたいです。電動ノコギリとかDIYするために必要な工具も揃えて、それを誰でも共同で使えるようにします。お金に余裕があればその場所の周辺に木や花を植えて、心地いい雰囲気を作りたいですね。軽井沢の教会の跡なんか素敵かなと思います。

畑を作って農作を。

100万円で作ったスペースの規模をより大きくして、地域の人たちが誰でも自由に使える場所を作ります。DIYする作業場だけでなく畑も作って、そこでみんなで野菜を育てたりしたい。コンパインとかビニールハウスとか農業のために必要なものも買えそうですね。とにかく地域の人が気軽に新しいものを作れるような場所を作りたいです。

地球を買って公共財産にする。

世界中の私有地を買って一度僕のものにして、それを放棄して地球上のあらゆる生命の公共財産に。「私有」という概念をなくして、人類の進むべき道をみんなで考え直します。



1,000円
あつたら……

1万円
あつたら……

100万円
あつたら……

1,000万円
あつたら……

無限
にあつたら……



お金、ちゃんと使えてる？ …………… お金を何に使いますか？

最先端医療に携わりながら伝統医療などにも目を向け、「いのち」の本質について問い続けている稲葉俊郎先生。今年4月、東京から軽井沢の病院へ移り、医療と教育、芸術を柱としたまちづくりにも取り組んでいる。取材場所にと軽井沢駅近くの小さな神社を提案してくれた。

「この長倉神社はこの地域の産神様。僕はよく子供と一緒に参りをするのですが、毎回必ずお賽銭を入れます。それが僕のお金に対する考え方の根本にあるものかなと思って」

参拝時に祈るのは感謝の気持ち。「この場所があるからこそ人間の生活の場があり、場を守ってきたのは産神様。そのお札をするためにお賽銭というお金を『媒介』として使っているという感覚です。僕にとってお金とは、自分の調和を保つために使うツールなんです」

「調和」とは稲葉先生が医療の現場において最も大切にしている人間の「いのち」の根幹を成すものだ。

「西洋医学は病気中心に考える医学で、どうしても病気を回避・治療できるかということを考えます。それに対して伝統医療はどうしたら健康になれるかを考える。病気という概念がなくて、調子が悪いのは健康である状態からバランスが崩れたという。病気を『倒す』のではなく、あるべき姿に戻す。この両者の考え方の違いは、お金についても同じことが言えると思うんです」

「病気」と「お金」を置き換えて考えてみてください、と稲葉先生。

「病気を中心に捉える西洋医学のようにお金を中心に人生を考えると、

常にお金にまつわる葛藤や悩みに取り憑かれてしまう。それを取り除かなければと思えば思うほどお金に支配されて、いわば蔓茶羅の中心にお金が鎮座しているようなものです。でも伝統医療的に考えると、その中心にあるのは『調和』であり、自分の『いのち』。蔓茶羅の周囲に描かれるのは自分を健やかに保ってくれる



参拝がほぼ日課という軽井沢の長倉神社にて。「参拝の時に自分のことを願うと、欲望が欲望を呼んでしまう気がします。お金も同じかもしれませんね」

profile

いなば・としろう／1979年熊本県生まれ。東大病院循環器内科助教を経て軽井沢病院総合診療科医長。2020年9月にオンライン開催となる『山形ビエンナーレ2020』では芸術監督を務める。著書に『いのちはのちのいのちへ』（アノニマ・スタジオ）など。

稲葉俊郎

●医師

あるべき自分の姿を
教え、導いてくれる
“医療的”お金の使い方。

「例えば野菜を買う時、僕はお金と野菜を交換しているとは思わない。作物を作ってくれた生産者への感謝、そして種を伝え土を守る人、野菜を運び並べる人。想像できるすべての関係性にお金を贈る。すると僕と生産者の間に新しい回路みたいなものが開く気がするんです」

「世界と自分をつなぐ回路を開くお

ぐるぐるサーキットしているだけで、自作自演の世界に閉じ込められたまま。消費活動が快楽になるのはそういう状態なんじゃないでしょうか」

そうした回路を稲葉先生は「流れ」という言葉にも置き換える。

「お金って世界中を回流していますよね。お金を払って新しい回路を開くというのは、そのさまざまな回路のうち、どの流れの中に自分がいたいかなを選択すること。どの流れに乗れば調和の保たれた状態でいられるのか。それを考えつつ、たくさんの回路を開いて自分のありたい状態に近づいていくようなイメージです」とはいえ、そもそも「調和のとれた状態」がどんなものか、それを知っている人の方がきつと少ない。

「それは健康においてもそうです。現代は病名がつかないと自分の不調に気づこうとしない人が多い。でもその前に必ず小さな違和感があるはず。消そうとしたりせずに向き合うことがまず大切。お金の使い方に関しても、何か自分とフィットしないなあと思ったら、それは自分のありたいと思う姿ではないんです」

最近どんなお金の使い方をしているかを考えることは、自分の今ある状態を知るためのバロメーター。「お金を使って新しい回路が開けば、別の方向に関心が向いて、見えるものも違ってくる。大袈裟かもしれませんが、人生で悪いループに陥っているとしても、お金の使い方一つでそこから脱するきっかけを得られるかもしれない。そんなふうにお金をよりよく生きるためのツールに使っていただきたいと思うんです」

るもの。僕にとつてそれは自分の命を守りつないでくれる自然や産神様、時には人だったりします」

日々のお金の使い方は
心の状態のバロメーター。

そして「いのち」を中心として描かれた蔓茶羅の森羅万象をつなぐために時として必要なのがお金だ。